

社会福祉法人 駿河厚生会だより

ことぶき

第77号

発行／社会福祉法人 駿河厚生会

〒410-0022 静岡県沼津市大岡3571-1

TEL(055)926-8500

沼津フジビューホーム

TEL(055)926-8500

フジビューホームヘルプサービス

TEL(055)926-8501

沼津フジビューデイサービスセンター

TEL(055)926-8502

大岡居宅介護支援事務所

TEL(055)939-6701

かどいけ地域包括支援センター

TEL(055)939-6700

ケアハウス沼津グリーンヒル

TEL(055)926-8503

ケアハウス岡宮グリーンヒル

TEL(055)928-6811

丘の上保育園

TEL(055)941-5731

柏葉尾苑

TEL(055)955-8777



現在の当法人の状況

駿河厚生会 理事長

沼津フジビュールホーム

柏葉尾苑・施設長 河野義文

年々暑さが厳しくなっていく地球環境ではありますが、皆様、お元気で過ごしてでしょうか。日頃より、当法人の活動へのご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、最新の令和4年度全国老施設収支状況等調査によりますと、補助金を利用した特養でも、約半数の施設が、赤字に悩まされているというデータがあります。特養の赤字問題は、介護業界全体の構造的な課題を反映しており、この原因を究明するとともに、適切な対策を講じなければならぬと感じています。赤字となる主な原因は、大きく3つあり、(1)職員の人員不足、(2)入居者の不足、(3)原油価格や物価の高騰であります。

当法人の令和6年度の経常増減差額率2.3%は、例外なく赤字の特養の主な原因と相似していて、当法人の今後の課題となっておりますが、職員の頑張りのおかげで何とか黒字となりました。

今年度は、昨年度より更に厳しい経営環境となることが予想されます。

そこで、看護師の労働環境について、夜間のオンコール体制を外部委託業者に任せることで、今まで行っていた看護業務の負担を軽減する様に改善しました。又、介護職員の労働環境についても、トランスフォーメーションを進め効率的で科学的なスマート介護の環境に改善していく所存です。職員の腰痛予防には、リフト等の機械を使うことで、持ち上げない介護（ノーリフティングケア）を進めています。

このように今年度事業として特に直接処遇職員である看介護職員の労働環境の改善に努めているところであります。物価の高騰については、光熱水費の高騰を抑えるため、契約状況の見直しを行い、電気・ガス・灯油の価格を低く抑えることができました。利用者稼働率の低下や経費の増加により、赤字経営にならないよう、今後も数値を注視し、黒字経営を持続できるように努めます。

また、地域貢献事業につきましては、地域とのパートナーシップ協定の一環として、今年度は、特養「柏葉尾苑」の地域交流室を活用し、子供たちの夏休みに合わせて「子どもカフェ」を開催し、地域とのつながりを大切にしながら、皆様に必要とされる法人であり続けられるよう、職員と共に歩んでまいります。

引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

子ども達の興味

丘の上保育園

園長 大川敦子

昨年、年長クラスでは「カラス」がちょっとしたブームになっていて、本を見ながら、「カラスの巣作り」なども行われていました。私もその仲間に加えてもらい、カラスの卵やカラスを子ども達と張り子で作ってみました。

何かについて考えていると、そのことについての情報になぜか出会ったりするもので、私も新聞の一コマから『カラスの教科書』（松原始著）という本を知り、読んでみました。当然知らなかったことばかり。「カラス」と一からげにしていたものが「ああ、違うのだ」と、知識が少し増えた一年でした。

子どもですから一つの興味がいつまでも続くわけでもないのですが、誰かから始まった興味が飛び火して、他の誰かの興味になったり、形を変えて広がったりしていくのだなということを感じます。

興味を持ったこと、好きなことに夢中になって取り組み、失敗しても考え、またやってみる。そんな経験をたくさん重ねることはAIの時代を生きていくためにとても重要なのだ

そうです。保育園での経験はまだまだ未熟なものかもしれませんが、小さい時から友だちと遊ぶことで「興味」や「好き」に出会う機会はいっぱいなのだと思います。

先日、プール遊びが終わった2歳児クラスの子が、プールの栓から出た水が斜面を流れていく様子を面白そうに見ていました。栓から出る水を別の長い管の中に通そうとしてみたり、プールの中に入れた草が栓を抜けていくのを試したりと、とても楽しそうでした。子ども達は様々な事象にも興味を持ち、「なぜ？」と好奇心でいっぱいです。春の草花を透明テープとテープの間に貼り込ませて、ボタニカルアートのようなかわいい飾りを作った年長さん。一人の子が「先生、これじゃ、お花が息できないよ」と言ったら聞きました。思いもよらない気づきにただただ驚くばかりです。

遊びや生活の中で生まれるたくさん「気づき」「興味」がいつかどこかで繋がって、新しい何かが生まれるかもしれません。

園では、これから子ども達の中に「興味」と「好き」の種をたくさん蒔きながら、夢中になって遊ぶことを大事にしていきたいと思



生活の場として

ケアハウス沼津グリーンヒル

施設長 松下 裕美子

ひととき暑い夏におかれて身体に不調をきたし、咳き込みや声がれ、食欲不振などの症状が表れて、病院受診をされる方々がみられます。

感染症ではないものの、酷暑の影響を多分に受けているようです。

健康に対する不安感が精神を病み行動範囲を狭くすることもあり、気づきと見守りは、私共の責務と考えます。

老後が人生の積み重ねの中から生まれてくることを考えても、人それぞれの老後の在り方は実に多様であり、さまざまな点でその人らしさににじみ出てくるようです。

人生で、様々な逆境を経験し、そのなかを生き抜いてこられた力が高齢者にはあるはずです。

老後の生活を積極的に選択していく時代に、自己決定が尊重され、尊厳ある暮らしが保障されなければなりません。加齢や病気の後遺症などで身体、認知、精神等にハンディがあったとしても、命ある限り人間として全うできる人生を送りたいものです。

私共では、本年百歳を迎えられた

女性のご入居者様がおられ、敬老のお祝いの市長表敬訪問をお受けする事となりました。確固たる芯をお持ちで、気品があり、エレガントなお方です。ご自分の意思決定を見事に果たされることにも感服致します。

軽費老人ホーム・ケアハウスは、高齢になってもできる限り最期までご本人の尊厳を維持し、より豊かな生活を支援していく使命を担っています。

個々の生活の場であり、個別に違う暮らし方で、自分らしい生活を営み、さまざまな問題を抱えた高齢の方が入居されたとしても、健全に、安心して生活していただく場所として、自立型ケアハウスの良さを創り上げて欲しいと願います。

私共の成すべき生活環境の整備と保全、清潔な日常生活に留意することにより、感染症を防ぎ、健康で快適な生活を送っていただけるように清潔な空間と、健康状態の維持の徹底を念頭に置いてまいります。

入居者様の尊厳を重んじて、受容と共感の姿勢

を忘れず、自立と自己決定を尊重し、皆様方との楽しい関わりを大切に、誠意を込めて努めてまいります。



主な取り組み

ケアハウス岡宮グリーンヒル

施設長 山本 潔

今年度の岡宮グリーンヒル全体での主な取り組みの一つは、イベント・レクリエーションの充実です。

新型コロナウイルスの猛威で、令和2年度から令和5年度までは、イベントやレクリエーション等、大勢が集まる活動は、殆どできませんでした。昨年度もインフルエンザの流行もあり、徐々には再開できましたが、様子見のところがあり、今年度になって、やっと全面的に復活できるようにになりました。施設内で行われるボランティアさんによる定期的なコンサートや季節ごとの様々なイベントはもとより、コロナでご家族との外出も断続的に制限されていた時期が続いたため、外出行事にも重点的に取り組む事としました。

また、法人全体目標の一つである「地域に開かれた施設運営に取り組む」を受けて、地域の方々を対象にした、ケアハウスの施設見学会を開催しました。初めての試みのため、誰にどう広報したらよいか、見学者は何に一番関心があり、見学内容のどこに重点をおいたら良いか手探りの状態で開催しましたが、26人の方

に参加していただきました。今後デイサービスの見学会も予定しています。

三つ目の重点目標は、業務継続計画（BCP）の活動・訓練の職員への浸透です。大きな災害や、感染症の蔓延で、日常の業務が継続できないような事態が発生した場合に、職員一人ひとりが、どのように対応すればよいか、自分に突きつけられた課題として捉え、平常時にどんな備えができるか、職員同士で話し合う機会を設けました。7月には、BCP自然災害研修として、能登半島地震の記録動画を視聴しました。駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震を想定して、事前に決めておく行動ルールと、準備しておく必要がある用品・備品等について、災害対策本部の各班に分かれて議論しました。今後、災害が発生した場合に困るであろうことを、少しでも事前に準備することにより、減らしていけるよう、進めてまいります。



沼津フジビュ－ホーム

介護課長 藤森綾子

多くのご家族様に参加して頂き、ご利用者様、ご家族様、職員が共に大変和やかな時間を過ごすことが出来ました。年を追うごとに、参加していただけるご家族様が増え、会場の関係上、昨年度より日程を2日間に分けての開催となりました。それでも会場が少し手狭になってしまいうくらい、多くのご家族様に参加して頂け、職員は感謝の気持ちでいっぱい、とてもありがたいことだと感じました。

普段の面会では時間に制限があり、一緒にゆっくり過ごす機会が殆どない状況です。それが家族会では、ご家族様とケーキや飲み物を囲んで食べながらたくさんお話をされていて、満面の笑顔のご利用者様を見たい時、私たちは、とても嬉しく思いました。

ご家族様へのアンケートより

- スライドショーがよかった。
- とてもよい会だと思えます。またお願いします。
- 孫たちも喜んでいました。
- 入居者の生活等をビデオで観られて良かったです。介護機器の説明も頂き、有意義でした。
- 本人がとても喜んでいました。また、このような機会がありましたら、参加させて頂き下さい。実際に使っているお部屋を見せて頂けて良かったです。
- ホームの歴史を知ることができ、ホームの運営（介護の業務改善、介護支援、ICT機器の活用、機能訓練、食事等）をよりよくする為に各部門で活動している事が理解できた。
- 初めての参加となりましたが、施設の温かさを感じました。こちらの施設で安心しました。



入所者様ご家族より

母を見送って

原川 いづみ様

6月、今年も沼津フジビューホーム家族会に参加させていただきました。

河野理事長の御挨拶や各部所担当の介護職員のリーダーの方のお話を聞きまして、入居者や利用者の為にと職員の方々が献身的で熱心に仕事をされている様子をうかがい知る事ができ、大変感謝し、うれしく思いました。

母は今年96歳となり、入所18年目で、「今、好江さんが最長入居者ですよ」と知らせていただきました。

毎年秋のお祭りや家族会では、職員さんから「好江さん今日は特別にたくさん食べていいですよー」と言っていたとき、母は大好きな甘い食べ物を取っていただきました。

このフジビューホームは、事務職員・介護職員の方々が、母が入所した時からほとんど顔ぶれが変わらず勤務されているので、皆さんが母の事を良く理解してくださり、名前を呼んで話しかけてくださっていて、面会に行く私の事まで良く覚えてくださっていますので、心地良い安心感を抱いていました。

その様な環境の施設だからこそ、



高齢で介護度4の認知症の母が安心して毎日暮らせているのだなと思いい、母の病が進んだとしても病院に入院する事よりも、ここの優しい人達に看取り介護をしていただこうと、私は早い時期から決めてお願いしておりました。

母は、6月の家族会で美味しいケーキをたくさんいただいた数日後から、横になり眠る時間が多くなつて行き、病院の先生による診断後に看取り介護に移る事になり、7月の末日に、母は看護師さんや介護士さん達に見守られて、苦しむ事も無く静かに96年の人生を終えました。

長い間お世話になった皆さんに、最後に見送っていただいて、大変感謝しております。

母もとても感謝していたと思います。

ありがとうございました。

沼津フジビュー

ショートステイ

ショートステイの

利用状況について

ショートステイリーダー 原 由美

いつも沼津フジビューホームのショートステイをご利用いただきまして誠にありがとうございます。

今回はショートステイの利用状況についてお話しさせていただきます。

フジビューショートステイはベッド数20床で運営しています。ご家族様の介護負担の軽減や冠婚葬祭などで外出される時等にご利用してもらい、ご家族様の代わりに介護をさせていただくサービスです。週末やお盆・年末年始にショートステイの需要は高まる傾向があります。一年を通して送迎を行っていますので安心してご利用いただければと思います。

ご利用いただいている方の中には、当施設への入所を検討されている方も多く、随時対応させていただいています。自宅や病院から直接施設に入所されるのは、ご本人様にとりまして、とても勇気や決心のいること、また、不安な気持ちでいっぱいになることではないかと思いが、当ショートステイは特養と併設になっていることから、大きな行事

等に、一緒に参加することもあります。更に施設の移動がないことから、ショートステイから特養入所になった場合でも全く違った施設への移動の不安や困惑が少ないことで、安心して利用へと結びついているように思います。認知症等の症状がある方にとっては、環境の大きな変化は特に影響があるように感じます。そういう点でも、ショートステイご利用中から特養への入所申し込みをされる方が増えているように思います。又、それは、当ショートステイのご利用について、ご納得いただけていることもと理解し、今後、より一層良い生活空間を提供し、楽しんでいただけるショートステイを目指していきたいと思っております。



保育園の園児さんとの交流



紙ひこうきを大勢で飛ばしました

沼津フジビュー デイサービスセンター

出前講座「沼津をもっと好きになる！」
「沼津100選」を開催しました

介護職員 牧野 裕美

デイサービスでは、毎月5日間「フジビュー大学」と題し、職員が講師となって様々な講義を行っています。今回はそのフジビュー大学の期間中の一日を、特別回として位置づけ、地域の皆様にもご参加いただき、外部講師をお招きした講座を開催することになりました。地域交流と、デイサービスの活動をより多くの方に知っていただくことを目的とし、沼津市役所広報課にご相談させていただきましたところ、出前講座「沼津をもっと好きになる！」沼津100選」をご紹介いただきました。

当日は、ご利用者様と柏葉尾地区老人会の皆様を含め、合計57名が参加されました。はじめに「沼津の宝100選」の冊子が配布され、講師の方による映像付きの解説がスタート。映像や冊子を見ながら、「行ったことがある。」「ここ、近くに何があったっけ?」と、参加者のあちこちから驚きや懐かしさの声が聞こえました。

講義の最後には、講師の方手作り

の「沼津100選カルタ」でテーブルごとに楽しく交流。実際の写真が付いた札を見ながら、取り札を取り合い、「こんなところ行ったよね」「この顔、だれ?」と、会場は笑いとお話でいっぱいになりました。思い出話に花が咲きました。

1時間があっという間に過ぎ、ご利用者様からは「もっと聞きたかった」「今度の機能訓練外出は、ここから選びたい」と言った声があがりました。また、地域の皆様からも「とても楽しかった」「沼津の魅力を再発見できた」「参加して良かった」とご好評いただきました。

初めての企画で不安もありましたが、参加者の皆様の笑顔と温かい言葉に職員一同、大変うれしく思っております。今後も地域の皆様が気軽に参加でき、デイサービスの活動にも関心を持っていただけるような交流の機会を増やしていきたいと思えます。

機能訓練外出

看護師 小島 里絵
看護師 濱中 志保里

6月に3カ所利用者にそれぞれが行きたい場所を選び、機能訓練外出へ出かけました。サントムーンでは自分で商品を選び、お金を払って、ご主人・お孫さんへのプレゼントを購入される方がいらっしやいま

した。買った洋服をデイに着てきてくれる方もいました。とてもお似合いました。びゅうおチームは地元沼津の新鮮な魚に舌鼓。いつも食の細かい方もペロリと完食しました。食事処と買い物の際には自身で支払い購入し、港内のお店を見ながら、沢山歩いて利用者の皆さんもいました。ヤクルト工場見学は、ヤクルトの歴史や腸内環境の話聞き、実際にヤクルトが作られている工程を見学しました。通路にはクイズもあり、利用者さんたちも頭を働かせて考えていました。工場内は車いすの方も

見学しやすく、いすも設置されており、安心して工場内見学が出来ました。乳酸菌シロタ株の底知れぬパワーと社員さんの努力の数々。ヤクルトがもっと好きになったのは言うまでもありません。

日頃デイでの活動も楽しいですが、機能訓練外出を通して、リフレッシュや社会参加につながる事が出来たら良いと思っています。

今回は「鑑賞の秋」「食欲の秋」をテーマに機能訓練外出を計画しています。次回もみなさん一緒にお出かけし、楽しい思い出を作りましょう。



地域密着型介護老人福祉施設

柏葉尾苑

家族会開催

フロア長 山本 拓真

柏葉尾苑も開設3年目となり、だんだんとユニットケアの良さが見えてきたように感じています。今年度は、また一つ行事を増やし、開設後、初めての「家族会」を開催することができました。6月28日に薔薇ユニット・7月12日には紫陽花ユニットという日程でした。多くのご家族様にお越し頂き、日頃の入居者様の生活状況を説明できたことや、スライドショーを通して、レクリエーションや日常の様子をご覧頂くことができ、ありのままの様子が写真や動画で見て頂けたのはよかったのではないのでしょうか。

コロナウイルス感染症も五類となり、柏葉尾苑では面会制限等の緩和が進んでいます。感染リスクの高い食事の場面での面会のご遠慮いただいております。そこで、日頃どのような食事を入居者様が召し上がっているのか、直接ご覧頂けたら、外出時の食事の目安となったり、ご家族様の差し入れの食事の形態の参考になるのでは、また食べやすい形態についてもイメージしやす

いのではないかと思います。今回、様々な形態のおかずと水分を試飲できるように、ご用意させて頂きました。水分一つをとっても、トロミの薄いものから濃いものまで、状態の異なるものを試飲頂いて、入居者様の生活の一部を知って頂く事が出来たのではと思っています。また午後のひと時を、ケーキやお菓子等を一緒に召し上がって頂き、入居者様とご家族様が笑顔でお話しをしながら過ごされる様子を見ることができ、私達も幸せな気持ちになりました。

家族会終了後のアンケートより、「施設での食事等を実物で分かった。また、スライドを通して日頃の生活が分かり、楽しく暮らしている様子を知ることができて、良かったです。今後とも宜しく願います。」と、ご回答頂くご家族様が多く、とても嬉しかったです。これからも入居者様が柏葉尾苑での生活を安心・安全に過ごせるよう、職員一同、励んでまいります。家族会は、来年度も引き続き開催したいと思っています。

地域運営推進会議について

生活相談員 手塚 春菜

地域密着型介護老人福祉施設に位置づけられる柏葉尾苑では、概ね2カ月に1回、地域運営推進会議を開催することが義務付けられています。

地域運営推進会議では、入居者様やご家族、地域住民の代表者、包括支援センターの方等にご出席いただき、柏葉尾苑で提供しているサービス内容等を明らかにすることで、適正な事業運営を図ることを目的の一つとして実施しています。また、ご出席いただいた皆様と意見交換を行う事で、サービスの質の向上や透明

性の確保に努めることも目的としています。これは、地域に開かれた施設運営を行う上で、非常に重要な事と認識しております。

その一方で、開設1、2年目は、手探りの状況の中、ご参加下さった皆様にご教示頂きながら、試行錯誤を繰り返して、適正な施設運営を意識していくことだけで、精一杯でした。3年目となった今年度は、地域との連携や、そのあり方、また、入居者様やご家族様が何を望んでいるのか、という点に目を向け、会議を通して、よりよい施設運営を目指していく所存です。



日々を楽しむ

職員の方達も皆さん優しいです。
でも自分の事は自分で出来るよう
頑張ります。

健康で、毎日を自分の意志で自由に動き、話し、出かけられる事はすばらしい事なのだと実感しました。いつまでもお元気で過ごしてほしいなと思います。私は、毎日のコミュニケーションの中で入居者様の変化にいち早く気付き、入居者様が快適に暮らしていけるようサポートに努めていきたいと思っています。



厨房便り

丘の上保育園

暑さに負けず

管理栄養士 佐野 美穂子

今年も暑い夏がやってきました。もはや異常気象は当たり前となり、世界中でとても深刻な問題となつていきます。それに大きく影響されるのが食材です。猛暑で野菜の品質が落ちたり、畜産動物の育成が悪く、熱中症で死んでしまうこともあります。それらは直ぐに食材高騰に繋がります。各家庭でもその負担は大きいのではないのでしょうか。勿論、給食の材料選びにも影響し、苦戦させられています。

栄養価を変えることなく、価格を抑えたい、そしていかにフードロスを無くすのか、これも食材を無駄にしない為の大きなポイントです。子ども達の苦手な食材はどうしたら食べやすくなるのか？大きさ、固さはどうか、焼く温度を変えてみよう、スチームで軟らかく仕上げよう、炒めて甘さを出してみよう、新しいメニューで変化させてみよう、と日々工夫をして給食を提供しています。子ども達に「おいしかった。」と言われると、また頑張ろうという気

持ちになります。そして子ども達の笑顔は、この暑さを乗り越える私達給食員の原動力でもあります。

岡宮グリーンヒル

管理栄養士 福田 愛子

今年は施設の庭に実った梅の実を、入居者様と一緒に収穫しました。「あそこにもある！」「こんなに大きい実が！」と皆さまで興奮で、夢中になって手を伸ばされていました。ある方は「久しぶりに背伸びをしたよ」と笑顔で話され、季節の恵みが自然と体を動かす力になっていることを感じました。その後は、収穫した梅で梅ジュース作り。氷砂糖と梅を交互に瓶に詰めながら「どんな味になるかな」と楽しみにされていたジュースは、出来上がると大好評。「おいしい！おかわりして飲みたい」と笑顔で話される場面もあり、自分で収穫し、手をかけた味は格別なのだと思います。

厨房でも、こうした季節の恵みを食事に取り入れながら、毎日の楽しみや元気につながる食事をお届けしたいと思います。



沼津フジビューホーム 沼津グリーンヒル 柏葉尾苑

いつまでも食べることが

できる幸せ

管理栄養士 岡本 歩

酷暑の折、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。農産物だけでなく畜産類もこの暑さで夏バテとなり食材の高騰が続いております。やむなく給食費の値上げとなつてしまい、皆様にはご理解いただきまして心より感謝申し上げます。

さて、そんな中、静岡県が健康寿命全国一位となったことをご存じでしょうか。健康寿命とは日常生活に制限なく健康な状態で過ごせる期間のことです。健康寿命を延ばすためのポイントとしてバランスのとれた食事を心がけることです。特に高齢者はタンパク質不足に注意が必要となります。しかし、加齢により段々と食べる量は少なくなり介護が必要になつてしまうことは少なくありません。施設に入所されているご利用者様も、食べることを最大の楽しみとしていることが多いです。給食だけでなく、嗜好品などを用いて楽しみをもつていただき、いつまでもおいしく食べる事ができる幸せを支援してまいります。

献立 メニュー 旬の食卓

『冷やし茶わん蒸し』

【材料】(2人分)

- ・卵 …………… 1個
- ・白だし …………… 20ml
- ・水 …………… 150ml
- ・好きな材料
(ミニトマト、
胡瓜、オクラ、
枝豆、トウモ
ロコシなど)
- あん
- ・出し汁 …………… 100ml
- ・水溶き片栗粉 …………… 少々
- ・みりん、薄口醤油 …………… 各小さじ1



【作り方】

- ①小鍋にあんの材料を入れて火にかけて、煮立ったら水溶き片栗粉を入れてとろみをつけ、冷ます。
 - ②フライパンに深さ1/3程度の水を入れて沸かし、ふきんを敷く。
 - ③ボウルに卵を溶いて残りの卵液の材料を加えてよく混ぜる。
 - ④好きな材料を下準備しておく。
 - ⑤耐熱容器に③の卵液を入れる。
 - ⑥フライパンの中のふきんの上に⑤を並べて入れ、水滴が落ちないようにペーパータオルを上に乗せてふたをする。
 - ⑦強火で1分、その後弱火で約14分蒸す。
 - ⑧粗熱をとって冷蔵庫で冷やし、①のあんをかけ、④の材料を盛りつける。
- ※お好みで材料は卵液に混ぜて蒸しても美味しくいただけます。

合同施設見学会を

開催しました

生活相談員 中村有紀子

当日は、26名の参加者を迎え、前半は岡宮グリーンヒル、後半は沼津グリーンヒルにて、それぞれの施設の紹介と見学を実施しました。参加者は2つのグループに分かれ、職員のご案内のもと館内および居室を見学。見学中は、参加者からの質問に答えながら施設の特長を説明しました。

見学会終了後のアンケートでは、約7割の参加者が「将来的に施設への入居を検討している」と回答。さらに、「ご自身やご親族が施設へ入居する際に重視する点」としては、

- 施設の利用料金…約90%
 - 職員の接遇、個室、医療体制…約60%
- といった項目が多く選ばれました。

自由記述では、

- ・ お部屋がきれいで清潔感があった
- ・ 明るく気持ちの良い雰囲気だった
- ・ 介護度に応じた柔軟な対応が感じられた

など、好意的なご感想を多数いただきました。

当日参加できなかった近隣住民の方からも「母の施設入居を考えている」との電話があり、後日見学にいらっしやいました。さらに、東京在住のご家族も来月見学に訪れる予定です。今回の見学会は、町内会の回覧板でご案内したチラシをきっかけに、多くの方々に当施設を知って

ただく機会となりました。

初めての試みの見学会を通じて、2名の方から入居の申し込みもいただきました。今後、地域の皆さまに施設の実際の様子をご覧いただく場を設け、ご入居者様に安心して過ごしていただける環境づくりに努めてまいります。



岡宮グリーンヒル デイサービス

機能訓練外出のご報告

生活相談員 佐野 宏枝

さわやかな初夏の風が吹き抜ける5月。デイサービスでは、機能訓練を目的とした外出レクリエーションを行いました。青空の下、皆様笑顔でバスに乗り込み、久しぶりの外出に心も弾む様子でした。

最初に訪れたのは、色とりどりの鯉のぼりが空を泳ぐ赤い橋のある自然豊かな裾野中央公園です。橋の上から鯉のぼりを見上げる方、手を振ってこたえる皆さまの姿はとても和やかで、周囲にも自然と笑顔が広がっていました。目で季節を感じるこのようなひとときは、心のリフレッシュにもつながります。

また別の日には、美しい藤の花が見頃を迎えているお寺です。優しく揺れる薄紫の花房にそっと手を伸ばし、香りや手触りを楽しまれる様子が印象的でした。自然に手を伸ばしたり、立ち上がって歩いたりといった動作も、日頃の機能訓練の成果を実感できる時間となりました。

今回の外出は、身体を動かしながら自然とふれあうことを大切にしました内容です。「やっぱり外の空気は

気持ちいいね」「また来年も行きたいね」といったお声も多く、皆様の笑顔がなによりの成果だと感じました。

これからも、季節ごとの楽しみを取り入れ、皆様の希望を組み込みながら、無理なく楽しんでいただける機能訓練を大切にしていきたいと思います。



医務室より

一年経って

看護課 倉島 栄子

令和6年4月1日に沼津フジビューホームから岡宮グリーンヒルへ異動して1年が経ちました。

初めはパソコン操作も出来ませんでしたが一から学び、今では操作にも慣れ、業務を行えるようになりました。日々、新しい事を習得し毎日が充実して取り組んでいます。

これからも、新しいことに挑戦しつつ、専門性を高めていけるように頑張っていきたいと思っています。

心豊かに自立した生活を

看護課 木元 聡美

この度、6月1日付で、特養フジビューホームから岡宮グリーンヒルへ異動となり早2ヶ月が経ちました。看護師業務は、特養と異なる点が多く、戸惑いながらもご入居者様の顔と名前を覚え、何とか業務を遂行出来る様になりました。

種々の感染症や加齢による心身の衰え、怪我のリスクを少しでも減らし、入居者様が安心して心豊かに自立した生活が送れる様、看護師として日々精進して参ります。

丘の上保育園

たのしいね!

もも組・0才児

保育士 山本 梨絵

もも組での生活が始まって数カ月が経ちました。初めはおうちの方と離れる時に泣いてしまったり、新しい環境に不安そうな様子を見せていた子どもたちでしたが、少しずつ園の生活にも慣れてそれぞれのペースで安心できる時間を過ごせるようになってきました。ボールや積み木などの玩具で遊んだり、お気に入りの絵本を見たり、探索活動も盛んです。保育者とのスキンシップも楽しみながら、毎日たくさんの笑顔が見られています。

いろんな遊びを少しずつ楽しめるようになり、先日は寒天や小麦粉粘土を使って感触遊びも行いました。初めて触る子も多く、冷たさや触り心地に驚く子、恐る恐る触る子、保育者と一緒に触って遊ぶ子など、様々な反応が見られました。

最近では水遊びを毎日行っています。タライやプールに入り、水の跳ね返りを浴びたり、びしょ濡れになりながら水の感触を楽しんでいます。興味や好奇心が芽生えてきた子

どもたちが「楽しいな」と感じる遊びをこれからも一緒に楽しんでもきたいと思います。



いっしょにあそぼうね

たんぼ組・1才児

保育士 石川 幸子

たんぼ組での生活が始まり、しっかりと足取りで歩けるようになった子どもたちは、笑顔で登園しています。

たんぼ組では2つのグループに分かれて生活しています。1グループ7人、8人の子ともたちで友だちや保育者と一緒に遊んだり給食を食べたりしています。

春には、グループごとに園庭へ出て、ちようちようやダンゴムシを見つけてじっくり観察したり、保育者と砂場で型抜き遊びをしたりと暖かい風を感じながら楽しみました。そして今は保育室のテラスで水遊びを楽しんでいます。大きなプールに少人数で入ることで、ゆったりと好きなおもちゃを使って存分に水の感触を楽しんでいます。

小さな集団で生活していると、子どもたち同士名前前で呼び合ったり、「どうぞ」とおもちゃを貸してあげたりする姿が見られ、小さいながらも子どもたちに仲間意識が芽生えてきたのを感じています。これからも遊びや生活の中で見られる小さな関わりに寄り添いながら見守っていききたいと思っています。



ピーマンのぴーい

すみれ組・2才児

保育士 土屋良太

今年のすみれ組では、食育の一環として部屋のテラスにプランターを置き、ピーマンを育て始めました。ピーマンの苗を観察してから、協力して植えていき、みんなで名前を付けていきました。そのうちの一つがぴーこです。「ぴーこ、おおきくなーれ」「おいしくなーれ」と、保育者と水をあげながら、優しく声をかけをしている子の姿に思わず心がほっこりしました。

そんなある日、「先生、ピーマンなってる」と、大喜びする子どもたち。「どうする？食べてみる？」と聞いてみると「うん。食べてみたい」との声があがったので収穫し、給食さんをお願いをして翌日の給食で提供していただきました。普段の給食では野菜が苦手でなかなか手が出ない子もたくさんいますが「どれがぴーこ？」「ぴーこ食べてみる」と自ら食べてみて、「ぴーこ食べられたよ」と嬉しそうに教えてくれる子たちの姿が見られました。

これからも、ぴーこたちの成長と一緒に見守りながら、子どもたちの食への興味・関心を広げていけたらいいなと思っています。



すずらん組になって

すずらん組・3才児

保育士 平井友梨香

7月に3、4、5歳児によるこども祭りがありました。3歳児は初めての主催側としての参加です。お兄さん・お姉さんの姿から、「やってみたい！」「と気持ちを膨らませて色々な事に挑戦しました。お店屋さんやゲームコーナーのアイテム作りの手伝いなど初めての事に緊張しながらも楽しんで取り組んでいました。

お祭りのゲームで行った魚釣り、ボーリングは、今も子どもたちが夢中で遊んでいます。ボーリングでは「必殺！」と必殺技を繰り広げ、ボールが当たると「100てーん！」「200てーん！」「自分たちで得点を決め、大盛り上がりです。

魚釣りをきっかけに部屋に大きな海を作りました。「海には、サメやイカ、クラゲ、イルカがいるよね！」「と次々に魚の名前が上がりました。「ぼくは虹色の魚を塗る！」「○ちゃんの魚かわいいね！」「とオリジナルの魚作りも楽しみました。

子どもたちが楽しい！もう一度やりたい！と遊び込めるよう興味や関心を大切にこれからも過ごしていきたいと思います。



みんなで！

ゆり組・4才児

保育士 市川 ゆい

進級してからの生活にもすぐに慣れ、ゆり組から始まるヨガ教室や英語教室など、新しい活動にも意欲的に挑戦している子どもたち。

遊びや活動を通して自然と友だちとの関わりも深まり、「折り紙教えてあげる！」「一緒にやろう！」などと声を掛け合い、協力する姿が見られるようになってきました。ルールのある遊びでも、「ゲームやりたい！」と保育者に伝えるだけでなく「みんなは？何やりたい？」と友だちの気持ちにも目を向け、子どもたちの中で話し合う力が育ってきていることに成長を感じています。

とはいえ、全てのやり取りがうまくいくわけではなく、時には強い言い方になったり、意見がぶつかることも。そんな時は「どうやって伝えたらよかったかな？」と「一緒に考え、思いの伝え方や相手の気持ちにも気付けるよう、心の育ちに寄り添った対応を心掛けています。」

一人ひとりの個性や思いを大切にしながら、自信をもって様々なことに挑戦し、みんなで成長していけるような保育を考えていきたいと思っています。



生きる難しさ

ひまわり組・5才児

保育士 水野 加菜

ひまわり組になってからたくさんの生き物に出会いました。今年は捕まえるだけではなく「飼いたい」と、子どもたちから強い希望もあり飼育にチャレンジしてみました。飼いがわからない時は図鑑で調べることができ知識も増えました。3種類の虫を捕まえたのに虫かごが2つしかない時は、子どもも会議で話あってみました。図鑑をみて飼いやお家が見ている虫と同じ虫かごに入れる意見が多かったです。なんとなくではなく、きちんと理由まで言える姿に驚きました。カタツムリの隠れ場がないときは、大きな葉っぱを蓋に被せてあげたり、葉っぱを組み合わせでテントに見立てたりと、図鑑に載っていないことは自分たちの頭で考えて行動している姿もみられました。

今回運よく卵や赤ちゃんも発見できました。なかなか卵から生まれず生きる難しさを感じることも多かったのですが、かたつむりは大量の卵のおかげで小さな赤ちゃんを見ることができました。生き物を大事にする優しさをこれからも忘れずに過ごしつつ、夏秋冬はどんな生き物に出会えるか今から楽しみにしています。



子育て支援センター 「コスモス」

親子で夏野菜クッキン

保育士 古郡 由里子

毎年5月初め頃、夏野菜の苗を親子でプランターに植え、水やりをして育てています。子ども達はトマトがだんだん赤く色づいていく様子や、小さかったナスやキュウリが大きく育つのを不思議そうに見ています。収穫時に採った野菜と一緒に笑顔で写真に収まる姿は何とも微笑ましいものです。収穫した野菜は支援センターで切り分けて皆で頂いています。7月には「夏野菜クッキング・ピザ作り」を行い、9組の親子が参加してくださいました。

保育園職員にピザ作りの応援を依頼し、一緒に和気あいあいと楽しくピザ作りができました。こねて、丸めて、伸ばしたピザ生地の上に乗せるのは、ピーマン、トマト、ナスなどの夏野菜です。ママと一緒に生地の上に上手に並べました。オーブンから出てきたピザはこんがりと焼きあがり、親子で美味しく頂く事が出来ました。野菜が苦手なお子さんととっても良い機会となったようです。楽しい食育の一環ともなる野菜作りをこれからも続けていきたいと思っています。



います。

一時預かり保育室 「なでしこ」

安心して過ごせる 部屋として

保育士 芹澤 久美子

保育園の一室に、一時預かり「なでしこ」の部屋があります。

短時間就労や通院・リフレッシュなど保護者の方がお子さんと過ごせない時間、当施設でお預かりしています。毎日可愛いお子さんが訪れています。登園の際に保護者の方と離れるのが寂しくて泣いてしまう子、笑顔でバイバイする子、バイバイもそこそこに遊びだす子と個性があらわれています。

今年は0歳から満3歳になるお子さんが利用されています。2・3才のお子さんになると泣いている子がいると心配して、おもちゃやぬいぐるみなど持ってきてあやしてくるなど、同じ時間を過ごすお友達を思いやる姿はとても微笑ましいです。外遊びも大好きで、草花や昆虫を見つけて手に取ってみたり、尻込みしたり、砂場ではクッキングで御馳走を作ってみせたりと遊びを考え、夢中になっています。自然と触れ合い安心して楽しく過ごしている子どもの笑顔はとても可愛いです。



これからも、この笑顔を守れるよう、安心して過ごせる部屋として努めていきたいと思っています。

大岡居宅介護

支援事業所

災害に備えてできること

管理者 永田雅也

地震や台風、豪雨など、自然災害が全国各地で頻繁に発生するようになった今、私たちの暮らしや介護サービスを守るために、災害への備えはますます重要になっていきます。その中で注目されているのが「BCP（業務継続計画）」という考え方です。災害や感染症の拡大といった非常時にも、必要な業務やサービスをできるだけ中断せず、継続・早期再開できるようにするための計画です。介護や医療の現場では、高齢者や障害を持つ方の命や健康を守るために、災害時でも最低限の支援を提供し続ける体制を整えることが求められています。

たとえば、職員が通勤できない場合の対応方法を決めたり、利用者とそのご家族と連絡が取れるよう安否確認体制を整えたりします。こうした備えは、日頃から計画を立て、訓練を重ねることで実効性が高まります。

また、災害時には「地域のつながり」や「社会資源」の活用が大きな力になります。地域には、福祉避難

所や災害ボランティアセンター、民生委員、町内会、高齢者の見守りネットワークなど、多くの支え合いの仕組みが存在します。普段から地域の情報に関心を持ち、顔の見える関係を築いておくことが、いざというときに助け合いにつながります。

私たちケアマネジャーは、こうした地域資源と日常的につながり、利用者一人ひとりに合わせた支援体制の整備に努めています。また、平時から利用者の状況を正確に把握し、災害時にも柔軟に対応できるよう情報の共有・連携を図っています。

災害はいつ起こるかわかりません。だからこそ、事前の備えと地域の協力体制が何より大切です。小さな備えの積み重ねが、大きな安心と安全につながります。皆さんも、ご自身やご家族、地域のために、できることから一緒に始めてみませんか？



かどいけ地域包括

支援センター

始めましょう！

フレイル予防

センター長 中世古 彰

前回号でご紹介しました沼津市のフレイル対策事業が、門池地区において今年度から開始となりました。

事業開始にあたり、フレイルサポーターになってくださる方とフレイルチェックを受けてくださる方の募集を同時に行いましたが、地域の皆様にご理解をいただき、どちらも定員を超える方々にお申し込みをいただきました。

おかげさまで、門池地区におけるフレイル対策事業が無事にスタートしたわけですが、大切なのは「これから」なのです。

フレイルチェックは、今の自分を知る機会となるため、興味を持って参加してくださるのですが、それから改善の取り組みを始めてこそその予防対策です。生活を見直して運動や社会参加に取り組める方は良いのですが、筆者である私を含め、「わかつちやいるけど始められない」という方もいらっしゃると思います。

介護予防や健康管理は、地道な努力や我慢の積み重ねになりがちです

が、長く続けていくためには、「楽しく」や「気軽に」が欠かせません。歩いて通える距離の場所、仲間と一緒に誘い合ってフレイル予防ができたら続けられそうですね。そこでお茶を飲みながら皆でお喋りをして、時には大笑いすることも立派な予防活動になるのです。

私たちは、フレイルサポーターの方々にご協力をいただきながら、自治会規模の単位で予防活動の展開を目指しています。様々な場所、参加者に合った独自の取り組みを確立し、進化させていくことが予防の浸透と継続につながると思っています。

フレイル予防の3つの柱は、栄養、運動、社会参加です。さあ、できることから始めましょう！



フジビュー ホームヘルプサービス

じっくり食べて

転倒予防

訪問介護課長 杉山 志津子

65歳以上の高齢者の3人に1人は1年間に1回以上転倒していると言われています。転倒した3人のうち2人は、打撲や擦り傷・骨折等、何らかのケガを負っているそうです。転倒・骨折は、認知症や脳血管障害と並び、主要な要介護要因となっています。

毎年暑い時期を迎えると、高齢者に限らず、食欲がなくなってしまう事があると思います。高齢になると、ちょっとした食欲不振から低栄養状態に陥り、筋力が減り（サルコペニア）、筋力が衰え（ロコモティブシンドローム）、歩きにくくなる等、体の動きが悪くなり、代謝が落ち、食欲が更に落ちる。と悪循環に陥ってしまいう事が予測されます。「おいしく物が食べられなくなった」、「疲れやすく何をするのも面倒」、「体重が以前よりも減ってきた」等と感じる事があるとしたら、それはフレイルかも知れません。フレイルが進むと転倒しやすくなり、転倒するとフレイルが悪化するという、これもま

た悪循環を生んでしまいます。このような状況を作らないようにするためにも、フレイル予防は大切です。

フレイル予防と聞くと、筋力アップをイメージする方も多いと思いますが、食事、もとても大切です。

食事、は活力の源です。しっかりと食べる事で、不足しがちな栄養を取り入れ、丈夫な体を作ります。転倒・骨折を防ぐだけでなく、風邪などの感染症予防にも役立ちます。

食が細くなったと感じた時は、① **おかずから食べる。**

（肉や魚、卵、大豆製品などたんぱく質の摂取を優先する。）

② **数回に分けて食べる。**

③ **間食を上手に活用する。**

（チーズやヨーグルトの乳製品、大豆製品、卵を使った物やたんぱく質が摂れる栄養補助食品等、不足しがちな栄養補給がおすす）

栄養の基本は、いろいろな食品を食べる事です。脳と体の基本的なエネルギー源のご飯等、血液や筋力・強い骨を作るたんぱく質、しっかりと

動くためのエネルギーになる油脂、体の調子を整えるビタミンとミネラル。毎日いろいろな食品をま

べんなく食べ、生き生きと元気で意欲的に毎日が過ごせるようにしていきま

しょう。



職員研修

BCPの取組みについて

防災委員長 猪又 吉一

今回は、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）における事業継続計画、いわゆるBCPについて、特に「机上訓練」と「防災備品の管理」の重要性についてお話しします。

私たちの施設では、ご高齢の入所者様が安心・安全に暮らせる環境を維持することを何よりも重要と考えています。しかし、災害や感染症の

ような緊急事態は、いつどこで発生するかわかりません。こうした不測の事態に備えるために、BCPは欠

かせない存在です。一般的に防災訓練というのは、身を守る事を目的として

います。しかし、BCP訓練は、事業を継続していくための訓練で、主

に、机上訓練と実働訓練を行うものです。現在、当施設では、BCPの

作成後の見直しをしながら、机上訓練を中心に取り組みを進めています。

まず、「机上訓練」とは、災害発

生時を想定して、実際は動かずに計画や対応フローを職員間で話し合い

確認していく訓練です。情報共有や役割分担の確認、連絡体制のチェック

などを通して、いざという時に慌

てず対応できる力を養います。実働訓練と違い、安全な環境で冷静に課題点を洗い出せるのが特長です。

次に「防災備品の管理」です。非常食、飲料水、懐中電灯、簡易トイレなどの備品は、定期的に点検・補充が必要です。期限切れや不足があると、災害時に大きな影響が出ます。

また、備品の配置場所や使用方法を職員全員が把握していることも重要です。これにより、施設全体の対応力が格段に高まります。実際に机上訓練を実施して、職員全員が施設のどの場所に何がどのくらいあるかをハッキリ把握することが出来、定期的に確認していく事が、いざという時の各々の動きに繋がるという事を実感しています。

BCPは、ただの書類ではなく、私たちが「命を守る行動」をとれるようにする為の土台です。日頃からの意識と準備が、入所者様と職員の安全を守る最大の力になります。ですから、これからも、一人ひとりが当事者意識を持ち、訓練や管理に積極的に関わってBCPを進めていきたいと思っています。



BCP 会議の様子

社会福祉法人 駿河厚生会 事業活動計算書

(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日

(単位: 円)

勘定科目	当年度決算
サービス活動増減の部	
収益	
介護保険事業収益	912,587,287
老人福祉事業収益	144,321,798
保育事業収益	154,800,850
介護員養成研修事業収益	2,767,000
経常経費寄附金収益	160,000
その他の収益	0
サービス活動収益計 (1)	1,214,636,935
費用	
人件費	773,848,232
事業費	176,226,585
事務費	178,112,900
利用者負担軽減額	244,120
減価償却費	119,786,572
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 62,458,541
徴収不能額	0
徴収不能引当金繰入	0
その他の費用	0
サービス活動費用計 (2)	1,185,759,868
サービス活動増減差額 (3=1-2)	28,877,067
サービス活動外増減の部	
収益	
借入金利息補助金収益	565,760
受取利息配当金収益	185,961
その他のサービス活動外収益	6,755,562
サービス活動外収益計 (4)	7,507,283
費用	
支払利息	3,457,151
その他のサービス活動外費用	5,185,554
サービス活動外費用計 (5)	8,642,705
サービス活動外増減差額 (6=4-5)	△ 1,135,422
経常増減差額 (7=3+6)	27,741,645
特別増減の部	
収益	
施設整備等補助金収益	15,695,000
固定資産受贈額	0
固定資産売却益	51,968
その他の特別収益	0
特別収益計 (8)	15,746,968
費用	
基本金組入額	0
固定資産売却損・処分損	469,622
国庫補助金等特別積立金取崩額 (除却等)	0
国庫補助金等特別積立金積立額	15,695,000
その他の特別損失	0
特別費用計 (9)	16,164,622
特別増減差額 (10=8-9)	△ 417,654
当期活動増減差額 (11=7+10)	27,323,991
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額 (12)	849,433,698
当期末繰越活動増減差額 (13=11+12)	876,757,689
基本金取崩額 (14)	0
その他の積立金取崩額 (15)	0
その他の積立金積立額 (16)	24,000,000
次期繰越活動増減差額 (17=13+14+15-16)	852,757,689

社会福祉法人 駿河厚生会 資金収支計算書

(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日

(単位: 円)

勘定科目	当年度決算
事業活動による収支	
収入	
介護保険事業収入	912,587,287
老人福祉事業収入	150,687,708
保育事業収入	154,800,850
介護員養成研修事業収入	2,767,000
借入金利息補助金収入	565,760
経常経費寄附金収入	160,000
受取利息配当金収入	185,961
その他の収入	6,755,562
流動資産評価益等による資金増加額	0
事業活動収入計 (1)	1,228,510,218
支出	
人件費支出	775,790,175
事業費支出	184,379,585
事務費支出	181,107,975
利用者負担軽減額	244,120
支払利息支出	3,457,151
その他の支出	5,185,554
流動資産評価損等による資金減少額	0
事業活動支出計 (2)	1,150,164,560
事業活動資金収支差額 (3=1-2)	78,345,658
施設整備等による収支	
収入	
施設整備等補助金収入	15,695,000
設備資金借入金収入	0
固定資産売却収入	51,970
施設整備等収入計 (4)	15,746,970
支出	
設備資金借入金元金償還支出	89,578,000
固定資産取得支出	38,023,736
固定資産除却・廃棄支出	111,067
施設整備等支出計 (5)	127,712,803
施設整備等資金収支差額 (6=4-5)	△ 111,965,833
その他の活動による収支	
収入	
積立資産取崩収入	14,927,000
その他の活動による収入	4,957,200
その他の活動収入計 (7)	19,884,200
支出	
投資有価証券取得支出	0
積立資産支出	38,949,000
その他の活動による支出	3,300,000
その他の活動支出計 (8)	42,249,000
その他の活動資金収支差額 (9=7-8)	△ 22,364,800
予備費支出 (10)	—
当期資金収支差額合計 (11=3+6+9-10)	
前期末支払資金残高 (12)	419,872,803
当期末支払資金残高 (11+12)	363,887,828



社会福祉法人 駿河厚生会 貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位：円)

勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
資産の部		負債の部	
流 動 資 産	405,760,046	流 動 負 債	96,827,156
現 金 預 金	248,877,815	短期運営資金借入金	0
事 業 未 収 金	130,408,790	事 業 未 払 金	20,140,671
未 収 金	552,789	その他の未払金	418,033
未 収 補 助 金	24,750,380	1年以内返済予定設備資金借入金	22,912,000
貯 蔵 品	140,784	未 払 費 用	17,742,378
立 替 金	662,572	預 り 金	0
前 払 金	13,832	職 員 預 り 金	3,570,076
前 払 費 用	353,084	仮 受 金	1,060
仮 払 金	0	賞 与 引 当 金	32,042,938
		その他の流動負債	0
固 定 資 産	2,376,216,633	固 定 負 債	322,382,952
基 本 財 産	1,740,808,790	設備資金借入金	251,112,000
土 地	465,536,782	退職給付引当金	4,080,752
建 物	1,275,272,008	長 期 未 払 金	0
その他の固定資産	635,407,843	長 期 預 り 金	67,190,200
土 地	124,462,924	負債の部合計	419,210,108
建 物	0		
構 築 物	66,177,179	純資産の部	
機 械 及 び 装 置	18,823,748	基 本 金	350,812,121
車 輦 運 搬 具	6,866,492		
器 具 及 び 備 品	70,865,714	国庫補助金等特別積立金	886,934,319
建 設 仮 勘 定	0		
権 利	895,409	その他の積立金	272,262,442
ソフトウェア	390,775	人件費積立金	39,764,106
投資有価証券	10,000	施設整備等積立金	123,300,000
退職給付引当資産	4,080,752	修繕積立金（保措）	4,000,000
長期預り金積立資産	67,190,200	備品等購入積立金（保措）	8,116,947
人件費積立資産	39,764,106	保育所施設・設備整備積立金	42,581,389
施設整備等積立資産	123,300,000	修 繕 積 立 金	54,500,000
修 繕 積 立 資 産	58,500,000		
備品等購入積立資産	8,116,947	次期繰越活動増減差額	852,757,689
保育所施設・設備整備積立資産	42,581,389	（うち当期活動増減差額）	（27,323,991）
長期前払費用	3,382,208		
その他の固定資産	0	純 資 産 の 部 合 計	2,362,766,571
資 産 の 部 合 計	2,781,976,679	負債及び純資産の部合計	2,781,976,679

フジビュー 研修センター

事務局 山田 幸子

「介護職員初任者研修」という言葉から、何を連想されるでしょうか。介護についての第一歩。介護という扉を、両手でしっかりと開けるところから始まり、介護についての専門用語・知識・技術を学び、介護を必要とする人への支援ができる様にする。介護の仕事をする上で、必要な知識や技術を習得する為の研修です。介護の仕事に興味・関心があり気になる。ご家庭に介護を必要となさる方がおり具体的な方法を学びたい。時間に余裕が出来たので、新しいことに挑戦してみたい。など、理由の如何に関わらず、介護の基礎知識を学ぶ機会を提供するのが、研修センターです。

今まで、知らなかった専門用語を学ぶ、使える。触れる機会がなかった車椅子等の介護用品を操作できる。食事・入浴・排泄の介助を求める人に、正しい知識で応じられる。受講すること、経験の幅を増やせたらいいな。そんなことを思いつつ、介護職員初任者研修に係わっています。かく言う私も、当研修センターの修了生の一人でもあります。

ケアハウス 沼津グリーンヒル



千羽鶴がたくさん



シマエナガストラップ



ぬり絵「かえる」



夏まつり思い出



錦鯉



コラージュ文字

デイサービス 岡宮グリーンヒル



粘土細工「おせち」

世界で たった一つの 作品



フラワーアレンジメント

ケアハウス 岡宮グリーンヒル



絵手紙教室
「あやめにハッ橋」



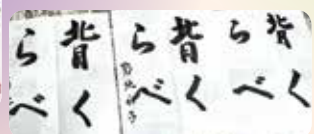
絵手紙教室
「おかしな顔絵あそび」



折り紙教室
「ゆかた」



ぬり絵



5月書道教室作品

沼津フジビュー デイサービス センター



折り紙「くす玉」



絵画「かたつむり」



粘土「にんじゃ」



折り紙「おかめいんこ」

丘の上保育園

「秋祭り」のお知らせ

今年も恒例の秋祭りを開催致します。多くの皆様のご協力のおかげで開催できますことに心より感謝申し上げます。大勢のご参加をお待ちしております。

・岡宮グリーンヒル

日時 10月18日(土)

12時30分～15時30分

雨天時 施設内で実施

(プログラム変更有り)

・沼津フジビューホーム

・沼津グリーンヒル

・柏葉尾苑

日時 10月25日(土)

12時30分～15時

会場 沼津フジビューホーム

雨天時 柏葉尾苑は中止

他2施設はフジビュー館内実施

編集 後記

今年の夏は、記録更新の暑さ続きで、日中の外出は控えたいとなります。晴天が続く、恵みの雨は豪雨です。何ともやり切れない気分ですが、園庭のマリーゴールドは、強い日差しにも負けず、元気に咲き誇っています。私達も暑さに負けずがんばりましょう。夏は腰痛が悪化しやすいようです。ご注意ください。